

一橋大学大学院—公共政策セミナー—

第5回講義：平井小百合氏

「日本の空港のあり方」

(株)大和総研／産学連携室

講義日（場所）	講師	講義概要／質疑応答
5/26(木)16:15 (神田・学術総合センター: 4F 第5講義室)	金融公共コンサルティング部・主任 研究員 平井小百合氏	<講義概要> ・ 「日本の空港のあり方」をテーマに、国内空港の現状と課題、これまでの経緯、海外事例と民営化形態について解説した。 ・ 前半は、国内人口の95%が2時間以内に空港を利用できるため、国内空港は既成しており、人口減少と新幹線の延伸で国内輸送量が今後大きく伸びる予測はしがたい中、アジア・太平洋の輸送を取り込むことが鍵。空港の種類と数と、98もの空港と高い着陸料を生み出した空港整備法と空港整備勘定の仕組みと、整備から運営への政策転換が遅れたことについて豊富な図表を用いて解説した。 ・ 特に、成田、羽田、関西国際空港などの主要空港の実態と国管理空港の赤字を詳説。徹底的なオープンスカイ、羽田と成田の競争力強化、空港経営の効率化など国家成長戦略について解説し、関空法案を紹介した。 ・ 経営戦略としては、航空系と非航空系の経営主体の一体化が合理的で望ましいことを説明し、そうならない国管理空港の問題を指摘した。 ・ 後半は、海外3カ国（英国、豪州、フランス）の民営化事例を紹介し、各国の空港政策を詳説した。まず、民営化の先進事例としてよく知られている英国の4事例を、政府の関与に触れながら紹介した。非航空収入拡大による売上増加、観光資源の活用による地域再生、マーケティングによる路線開拓、複数の離島空港のグループ経営による効率化などを解説した。 ・ 続いて、豪州、フランスの空港事例についても同様な視点から解説し、日本の空港経営との差異を解説した。 ・ 最後に、空港の4つの民営化形態（IPO、トレードセール、コンセッション、運営委託）には色々な方法があることを紹介した。 ・ 本講座後半(7/7)で予定されているプレゼンテーション課題は、「国内空港の一つを選び、公営／民営のいずれの運営が適切あるかの理由、民営の場合は民営化形態のいずれが望ましいか、また将来のあるべき姿を（余力があれば）定量的なデータを元に描く」こととした。 ・ 3名の担当院生と打合せを行い、講師とメール等で連絡をしながらプレゼンテーション準備に取り組む段取りを確認した。 ・ 質疑応答の時間は残念ながら取れなかったが、首尾よく終了した。

以上